

経営比較分析表（平成30年度決算）

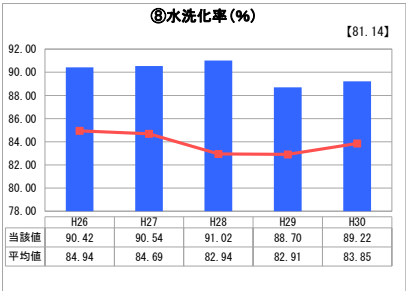
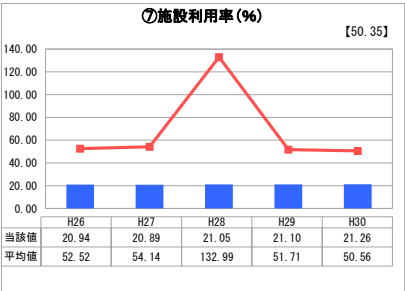
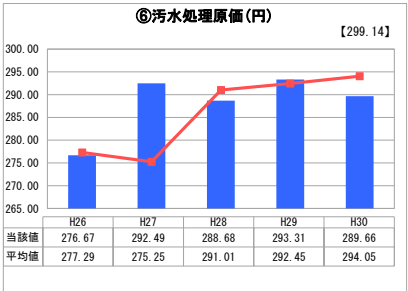
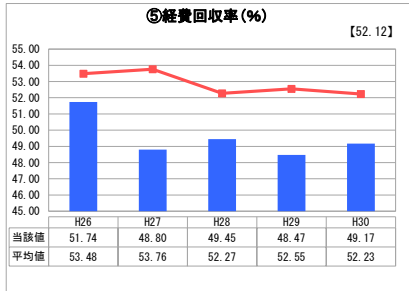
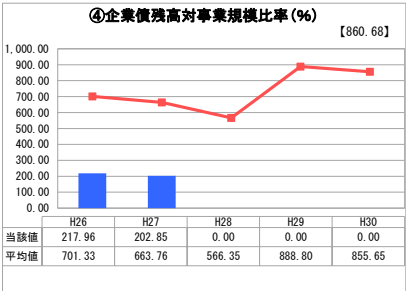
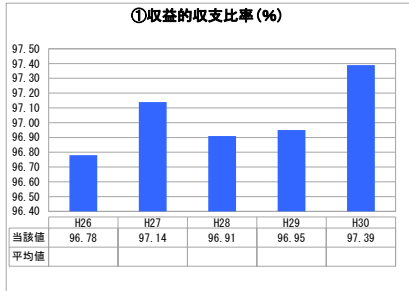
兵庫県 佐用町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	個別排水処理	L2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	29.67	100.00	2,984

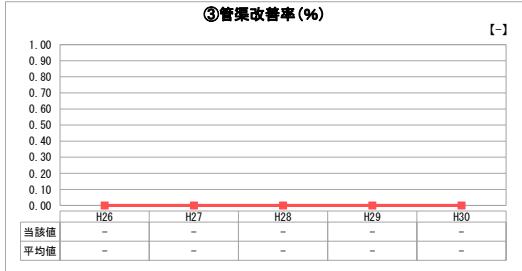
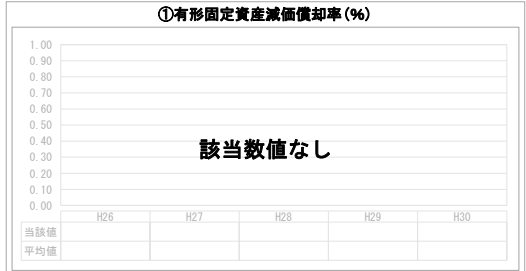
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
16,973	307.44	55.21
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
4,999	270.83	18.46

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益の収支比率は前年に比べ改善されているが、経費回収率が平均値より低いことから一般会計からの繰入による部分が大きい。更なる維持管理経費の節減、料金徴収体制強化の必要がある。
④企業債残高対事業規模比率は起債償還を一般会計繰出金に依存しているため当該値に反映されていない。
⑤経費回収率は全国平均を下回っており、今後も接続人口減少による使用料の改定なども視野に入れたコスト計画策定が必要である。
⑥汚水処理原価は前年より減額しているが、人口減少による有収水量の低下も見込まれコスト増加の可能性がある。
⑦施設利用率は同程度を維持している。
⑧水洗化率は全国平均を上回っており、100%を目途にさらに推進を図る。

2. 老朽化の状況について

浄化槽の老朽化が着実に進んでいる。不在世帯の浄化槽の管理体制の見直しも含め、更新計画の策定が必要になっている。

全体総括

佐用町の下水道3事業（特環、農集、個排）のうち、特に過疎化が進む中山間地域を中心に区域設定がなされているため、接続人口の減少と利用休止施設問題が最も顕著に表れている。一般会計からの繰入金も増加傾向にあるため、より効率的な事業運営と一層のコスト管理が求められる。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益の収支比率の類似団体平均等を表示していません。